日中におけるラップ音楽について

国際文化学部国際文化学科 3年

17011042 千葉明里

1. はじめに

近年日本ではヒップホップ文化が徐々に浸透し始め、特に日本語ラップは再度人気になりつつあり、現在では高校生ラップ選手権やフリースタイルダンジョンなどがテレビ番組になりラップを題材とした番組やコンテンツが出始めている。私自身ラップ音楽が好きで日本語ラップをよく聴いている。さらに韓国語の音が好きであるため韓国語のラップ音楽を聴くこともあり、中国語学習を始めてからは中国語ラップも聴くようになった。ヒップホップやラップと聞くと曲調やラッパーの風貌などから怖いという印象を持つ人もいるかもしれないが、近年の日本におけるラップは音楽として確立されており、ヒップホップ文化とはジャンルとして区別されていて、別物として楽しむことができると考えている。今回のレポートでは日本と中国におけるラップ音楽のブームについて記す。

2. ラップとは

ラップとは、歌唱法の一つであり、何が言われているか、リズムや韻、成長などの話し方などの要素が含まれている。ラップにはメロディをあまり必要とせず、似た言葉や語尾が同じ言葉を繰り返す韻を踏むのが特徴的で口語に近い抑揚をつけて発声する⁽¹⁾。

一般に音楽的な意味でラップという言葉が使われるようになったのは1960年代のアメリカ東河岸においてだと言われている。当時は誰かを説得させたり楽しませたりするためのユニークで滑らかな話し方という意味合いであった。そして1970年代以降派手な音楽にのせてリズムカルに韻を踏むという今のラップスタイルに近づいて行った。そしてラップミュージックという新しいジャンルの音楽が世間に広く知れ渡るようになったのは1980年代前半である。

ラップの起源は西アフリカの griot(グリオ)と呼ばれる音楽に合わせて歴史や民族などを伝える伝統伝達者のパフォーマンスであると言われている。彼らはコミュニティに古くから受け継がれる言い伝えや、民族内・多民族間との政治的な話やゴシップネタなど豊富な知識を独特なリズムに合わせて披露していた。そしてこの「様々な内容をユニークなスタイ

(1) 「ラップ - Wikipedia」

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/ラップ>)

最終閲覧日：2020年1月21日

ルでリズムに乗ってパフォーマンスする芸能」がのちに大陸を渡り、アメリカ東海岸でのラップミュージックの誕生へつながった⁽²⁾。

3. 日本でのラップブーム

日本語ラップというカルチャーが生まれたのは80年代で、いとうせいこうや藤原ひろしなどがラップを自然に日本語として取り入れた楽曲を次々に発表し最初のブームを作ったとされている。90年代になると、それまで一部のファンが盛り上がる「サブカルチャー」だった日本語ラップが、EAST END×YURIの「DA.YO.NE」やスチャダラパーfeat.小沢健二による「今夜はブギー・バッグ」などのヒット曲により大衆的な人気を得るようになった。その後2000年代になってからジャニーズなどのアイドルがラップパートのある楽曲を歌うようになり、ミリオンセラーとなった曲にラップパートが含まれていることがごく自然なことになっている⁽³⁾。現在では高校生ラップ選手権やフリースタイルダンジョンなどがテレビ番組として取り上げられるようになり、ラップ音楽のみを扱うクラブやイベントなどもよく開催されるようになり、以前に比べ誰でも手軽にラップが楽しめるような環境になっている。

4. 中国でのラップブーム

中国では情報規制がほかの国に比べて厳しいことは有名であろう。そのため Google や Twitter など海外サイトの多くが中国では閲覧できないようになっている。そのため、中国には百度という検索サイトや微博という SNS、愛奇艺という動画投稿サイトなど独自のインターネットサイトを持っている。

2017年はヒップホップブーム元年と呼ばれるほど中国でヒップホップ文化が人気になり、中国の大手動画配信サイト愛奇艺では2017年6月から「中国有嘻哈(THE RAP OF CHINA)」や2018年からは「中国新説唱」という番組が配信されている⁽⁴⁾⁽⁵⁾。

(2) 「【番外編】実はめちゃくちゃ面白いラップミュージックの誕生の歴史」

(<https://www.bigtreeinthehouse.com/entry/dozens>)

最終閲覧日：2020年1月27日

(3) 「【ヒプマイ、FSD……】「日本語ラップ」のルーツを知るための3冊」

(<https://pdmagazine.jp/background/japanese-rap/>)

最終閲覧日：2020年1月27日

(4) 「中国有嘻哈」

(http://www.iqiyi.com/a_19rrh9ksp9.html)

最終閲覧日：2020年1月21日

(5) 「中国新説唱」

(http://www.iqiyi.com/a_19rrgxwtfh.html)

中国でラップが人気になった理由はいくつかあるが、一番は中国語がラップに適した言語であるからだと考える。中国語は語彙が豊富であり、ほかの言語に比べて脚韻に適した、つまりフレーズの末尾に押韻（韻を踏む）しやすい言語である。さらに四声があり同じ音でもイントネーションによって意味が変わる。これも中国語がラップに向いていると言われる理由の一つである。さらに漢詩（中国古典詩）には押韻という技法が用いられており、古くから「韻を踏む」という文化は親しまれており、「韻を踏む」「母音を揃える」という修辞技法が、言語の音声的表現として美しいものであるという考え方があったことも、現在のラップブームの要因ではないかと考える。

しかし、2018年1月、中国ではヒップホップ文化は低俗であるとし、「入れ墨のある芸能人、（ラップを含む）ヒップホップ文化、不健全な文化は番組で扱わない」よう関係機関に求めるということが起きた⁽⁶⁾。さらに2019年1月には男性芸能人がテレビでピアスを着用することを禁止するなどの制限なども設けられるようになってきている⁽⁷⁾。

このような制限が設けられていながらも、中国大陸や台湾などには多くの地方ラッパーが各地に存在している。各地でクラブ経営や各地方で地道な活動をしているラッパーはヒップホップブーム・ラップブームが起きた2017年より以前より多く存在しており、各地の方言を用いた独自のラップを披露するラッパーが多くいる。さらに、中国国内だけでなくアメリカや日本などの海外で中国語ラップを披露するグループもある。実際に中国四川省成都で活動をしている海爾兄弟(Higher Brothers)というグループは2018年のサマーソニックに出演をしており、北米ツアーなども行っている⁽⁸⁾。今後世界的に中国語ラップが浸透する日もそう遠くないと考えている。

5. さいごに

私はラップ音楽が好きである。現代においてラップとは文学であり言葉遊びであるとは

最終閲覧日：2020年1月21日

⁽⁶⁾ 「中国がラップ、ヒップホップ禁止令 反体制文化を警戒か」

(<https://www.sankei.com/world/news/180123/wor1801230030-n1.html>)

最終閲覧日：2020年1月27日

⁽⁷⁾ 「中国、男性芸能人のテレビ出演時のピアス着用を禁止か＝中国版ツイッターで1位に」

(<https://www.recordchina.co.jp/b679925-s0-c30-d0052.html>)

最終閲覧日：2020年1月27日

⁽⁸⁾ 「ハイヤー・ブラザーズ日本独占取材「中国でヒップホップは今後も大きくなると思う」」

(<https://rollingstonejapan.com/articles/detail/28937>)

最終閲覧日：2020年1月27日

らえており、言葉が好きであるからだ。普通のJ-POPなどの曲に比べラップは1曲当たりの文字数が多く情報量が多い。そのため繊細な世界観が描かれており、短編小説のような面白さがあると考えている。日本語はラップに向いていない言語であると言われることが多いが、どの言語のラップを聞いても言語によって韻の踏み方が違い歌詞の表現方法なども異なっている。英語ラップには英語ラップの、日本語ラップには日本語ラップの、中国語ラップには中国語ラップの面白さがそれぞれある。怖いという印象を持たれやすいラップであるが、実際に聞いてみると奥が深いものであり、音楽としても文章としても楽しむことのできる作品なのである。一度日本語ラップ、中国語ラップなどラップ音楽に触れてみてはいかがだろうか。